

入庁後の今伝えたい 7つの魅力

生活を、命を、最前線で守り抜く。



札幌管区気象台で働く若手職員が伝えたい
就活生の皆さんに向けたメッセージをまとめました。

7つの魅力

01 警報・注意報の発表ができるのは気象庁だけ

02 全ての人のために仕事ができる

03 様々な自然現象を取り扱う

04 学生時代の学びや研究で培った思考プロセスは必ず活かせる

05 新たな分野であっても安心して挑戦してほしい

06 プロに学び、プロを目指せる

07 誰もが知っている職場 それってかっこよくないですか？

番外編：データでみる札幌管区気象台

No.1 警報・注意報の発表ができるのは 気象庁だけ

民間の気象会社では発表することのできない
気象・地震・津波・火山・航空機の安全運航に関する警報といった
命を守るための情報を発表しています。

ここまで防災のきっかけとなる業務に携われるのは、
気象庁だけではないかと感じています。

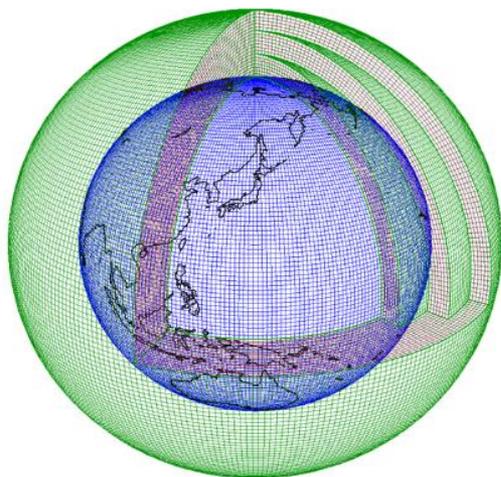


防災機関として社会に貢献し
そのことを実感できる職場です。

あらゆる気象現象の観測・分析が好きな人や、
自然災害の防止・軽減に少しでも興味のある人は是非入庁してほしいです。

No.2 全ての人のために仕事ができる

この仕事は、特定の誰かではなく、すべての人のために仕事をすることができます。
人のために働きたいという気持ちが“防災”とマッチしました。



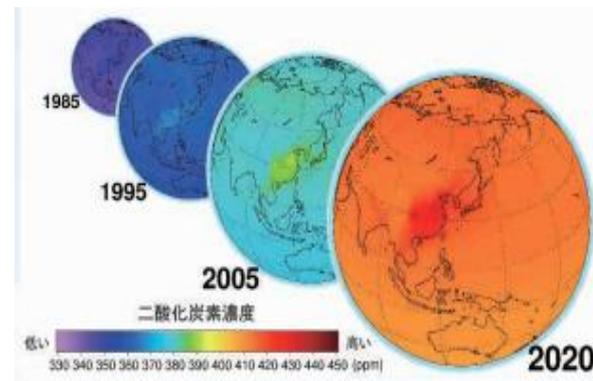
▲地球全体を予報領域とした数値予報モデル



▲「ひまわり」が捉えた雲の分布



▲静止気象衛星ひまわり
気象衛星をとおして東南アジアに
貢献しています



▲大気中の二酸化炭素濃度分布の解析
古くからの観測により
地球温暖化などで評価することができます

大気に国境はありません。
私達が気象庁で観測・予報精度の向上や防災力向上を目指すことは、
日本国内だけでなく世界の誰かの防災に繋がっていると思っています。

No.3 様々な自然現象を取り扱う

もともと自然科学にとっても興味がありました。

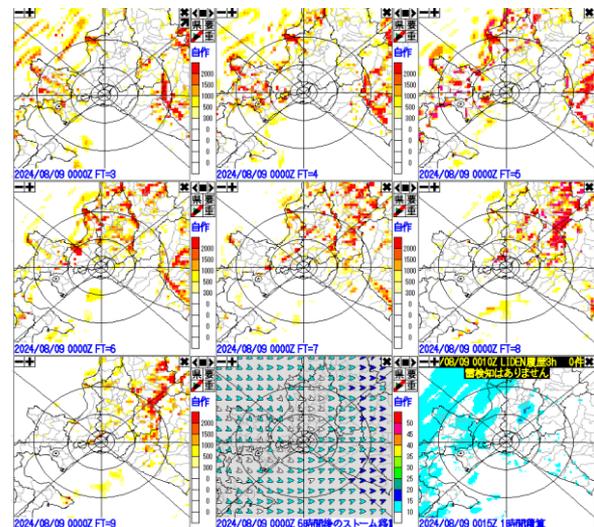


気象・海洋・地震・火山など、様々な自然現象に関する幅広い業務があり、入庁後の今も挑戦したい業務がたくさんあります。

No.4 学生時代の学びや 研究で培った思考プロセスは必ず活かせる

気象の知識やプログラミングなど、
学生時代の学びは存分に発揮する機会があります。

どの部署でも取り組むことのできる、業務向上のための調査・研究では、過去事例を解析し、そこから得られた知見は現在の防災気象情報の発表に役立てられています。



気象庁の業務とは関係ないと思っていた知識・
経験であっても生かせる瞬間が多くあります。

学芸員や教員を目指した過程で身につけた知識
や思考は、気象庁業務の本質である“伝える”
ことに活かせています。

No.5 あなたにとって「気象」が新たな分野であっても 安心して挑戦してほしい

知識を持っていないと厳しい世界だと思っていましたが、
仕事や研修の中で改めて覚えることがほとんどです。

入庁前に気象・地震・火山など、専門知識を身に付けて
いないことを理由に、気象庁を諦めないでくださいね。



観測測器の取扱いに関する研修の様子



「研修生の皆で組み上げました」



津波痕跡高調査演習の様子

担当部署以外の業務や知識については、毎月勉強会や談話会が開催され
自ら吸収できる機会がたくさんあります。

No.6 プロに学び、プロを目指す職場。

経験を積んだ先輩達の予報作業を見ていると、ワクワクします。
いつか自分もプロになれるように、プロに学びプロを目指しています。



職場では理系生まれの理系育ちが多く
適度な距離感があることや、大学の研究室のような雰囲気が心地良いです。

利益を求めた競争ではなく、
全員が自然災害の防止・軽減を目指して日々業務に励んでいます。
自分をあまり消耗せず働けることが、とても自分に合っていると感じました。

No.7 誰もが知っている職場 それってかっこよくないですか？

「気象庁」という響きに憧れがありました。

就職先が気象庁に決まった時、周りの人が「すごいね！」と言ってくれて
とても嬉しかったです。

今は気象庁の職員であるという緊張感・責任感がありますが
同時に誇りをもって仕事ができています。

制作 若手職員で結成した採用促進WG

「国家公務員」

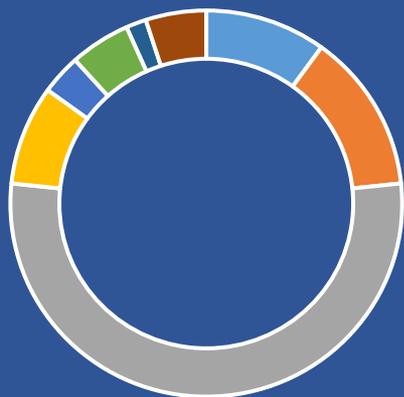
そんな壮大なスケールのフィールドで、
自然災害が頻発・激甚化するこの時代に
自然災害から人の命・暮らしを
私達と一緒に守りませんか？



番外編：データでみる札幌管区気象台

R7.4.1時点

国家公務員試験 受験区分の割合



- 技術（一般職高卒者試験）
- 行政（一般職大卒程度試験）
- 物理（"）
- デジタル・電気・電子（"）
- 土木（"）
- 化学（"）
- 林学（"）
- 総合職、気象大学校採用試験

R7.3.31 札幌管区気象台に在籍した入庁5年以内の若手職員

入庁2年目の年収
約405万円

2年目の給与を想定
地方勤務（札幌以外）、残業 月約6.6時間、各諸手当込み

育児休業取得率
100%

男性の
育児休業取得期間



- 1カ月程度
- 3カ月程度
- 半年程度
- 1年以上

R4～R6年度の取得実績

夏季の連続休暇日数

平均 9 日

※土日祝を含む

年次休暇年間取得日数

平均 17.4 日

働き続けやすい。それが一番。